挑戦

和歌山箕島球友会

戦力分析・下

すきを突く「足攻」掲げ

貪欲に1点奪う

西武プリンスドーム（埼玉県所沢市）で先月あった第40回全日本クラブ野球選手権大会で、和歌山箕島球友会は4試合で16得点した。各回の先頭打者は計13回出塁。そのうち9回はバントで送って好機を作り、適時打で還す手堅い攻撃を見せた。

西川忠宏監督(54)は「相手が嫌がる点の取り方をしていかないと、企業チーム相手では厳しい」と、貪欲に1点を奪いにいくことを攻撃陣に求める。監督の脳裏にあるのは、都市対抗野球大会近畿地区2次予選（5月）の2回戦で、日本生命（大阪市）にやられた場面だ。

5点リードで迎えた七回、1点を返され、なおも無死一、二塁。相手の3番打者は意表を突いて三塁側にセーフティーバント（記録は投手への内野安打）を決めた。満塁から4失点。結局、敗れた。試合後、この打者は「三塁手が一歩下がっていたので狙った」と語った。西川監督は「さすが強豪。相手のすきを突く重要性を痛感した」と振り返る。

日本選手権でチームが掲げるのは「足攻」だ。元々、同1次予選で1試合11盗塁を決めるなど機動力はある。西川監督は「後はどれだけ次の塁を意識できるか。企業チーム相手に実践したい」と力を込めた。

もちろん長打や適時打での得点は重要だ。鍵を握るのは、林尚希(25)＝三重中京大▽岸翔太(22)＝大阪ガス▽穴田真規(22)＝阪神タイガース＝の3選手になりそう。4番の林選手は、日本生命戦の適時二塁打など2次予選を通じて12打数5安打を放った。安打のうち1本が三塁打、2本が二塁打と長打力を見せた。

今季入団の岸選手はクラブ選手権での打率が大会通算4割1分1厘。「ここぞという場面で、チームの勝利につながる一打を打ちたい」と意気込む。入団2年目の穴田選手は、自他ともに認める引っ張り屋。クラブ選手権では14打数4安打、長打は二塁打1本だったが、「本塁打を打ちたい」と、1勝を目指して挑む日本選手権での活躍を誓った。

紅白戦で実戦感覚を磨く選手たち。日本選手権では足を絡め、貪欲に1点を奪いにいく＝有田市宮崎町のマツゲン有田球場で